



魅力の創出

坂田 公夫^{*1}
SAKATA Kimio

今年の春は異常な天候だった。桜の花もその影響を受けて、開花宣言は記録的な早さだったが、その後、雪さえかぶった花があったほどの寒さのため、花は大変長持ちした。お陰で都内でも3月下旬の開花から4月中旬まで花がもち、桜好きの私としては、郊外へのドライブを含めると、何度も美しいソメイヨシノや山桜を鑑賞することが出来た。ただし、はかなく惜しまれつつ散る桜の姿も欲しいと、贅沢な気持ちにもなった。桜は日本人の心のふるさとでもある。

世の中に絶えて桜のなかりせば 春の心はのどけからまし

古今集にある在原業平の名歌で、ご存知の人も多いだろう。桜の魅力が人の心を奪うので、春は何ともし落ち着かない、困ったものだ、いっそ、桜などなければいい、と逆説的に桜の魅力を詠っている。

ガスタービンやジェットエンジンを桜の花にたとえるのは無理があるが、その魅力について語ることは出来る。我々ガスタービン学会員にはガスタービン・ジェットエンジンは実に魅力的な機械である。熱機関として、熱効率と機関重量当たりの出力（比出力）で他をリードしている。だから燃料を搭載して飛ばざるを得ない航空機用のエンジンにはジェットエンジンが独壇場なのである。1930・40年代のホイットル（英）やオヘイン（独）、種子島（日）等の開拓時代から、現在のGE、P&W、RRが世に出している、高バイパスターボファンに至るまで、その性能、機能、機械としての美しさ（少々独断もあるが）の魅力は尽きない。

しかし、魅力は誰が提供しているのだろうかと考え、少々足が止まる。在原業平は、神と言っても良い自然が提供した桜の虜になったのだが、ガスタービン研究者、技術者、運用者は、神ならぬ、先人が生み出した先端機械を対象としている。ジェットエンジンではGEの群を抜く大型エンジンシステム、RRの3軸エンジン、最近のP&Wのギアード・ファンは、一部に我が国設計陣が加わっているとは言え、手放しで惚れ込むわけにはいかない。誰がその魅力を作り出しているかである。

魅力ある技術、機械、システムを生み出し、長く使いたいと思う、永く付き合っていきたいと思う、そんなものを作り出して世の中に提供するようになりたい、と考える人が、この学会員に多くいて欲しいと思うのだが、それは、魅力の享受者ではなく、提供者になることを目指して欲しい、ということである。ガスタービン・ジェットエンジンの世界で、新たな魅力を創出させる創

造主になれと言うことでもある。

別の観点だが、我が国の製造業を元気にするための「もの作りの日本」という標語のような言葉がある。我が国がもの作りで優れていることを疑う人は少ないと思う。高度な技術を必要とするものを、きれいに、かつ、約束の時間内で作ってみせる能力は世界的に定評がある。これは優れた手工芸品を創り出して来た日本の伝統にも根ざしている。また、もの作りと言う言葉には不思議な魅力がある。何もないところから“もの”を創造するといった響きさえある。

そしてこの学会は、並の技術を持つ程度の国では作れない、ジェットエンジンやガスタービンを開発製造する能力がある国の中核学会である、と自負する。部品点数も多く、複雑で技術レベルの高い“もの”を創り出すという魅力にとりつかれている人々の集まりではないかと思う。そして、このような高度な機械製品の開発製造こそ、もの作りの典型ではないかと考える人も多だろう。

しかし、歴史はもの作りが単なる物品の加工製造ではないことを証明している。真のものは、生活や活動において役に立つ、固有の“価値”の提供であることを示している。混同しないように、このことを「こと作り」と言う人も居る。そして今我が国の産業が直面する課題には、価値の提供に陰りが見えてはいないかと言うことだ。テレビ、自動車、携帯電話、様々な分野で海外の新興メーカーに苦戦が見え始めている。ガスタービン・ジェットエンジンは、我が国がこれから伸びようとする新興メーカー群として頑張ろうとしている。航空機も含め、ガスタービン・ジェットエンジンは、単一機械と捉えてしまうと魅力は半減する。テレビや自動車はコンシューマ直結型の工業製品である。これに対して、我々が対象とするものは、その購入者が航空会社、電力会社などの運用のプロであり、航空機や発電所などのシステムとしてまとめ上げられて機能を発揮する、プロ向けのシステム製品である。最終ユーザーである乗客や一般家庭は、それに触れることはない。さらに言えば、運用についてのソフトや整備、改修等も伴って、製品の生涯全体が提供物である。

喫茶室としては少々長くなったので、最後に締めくくろう。我が国がこの世界で、有力な価値の提供者として存在するためには、固有の魅力を出さなければならない、ということである。人を捉えて放さない魅力。別の言葉で言えば、優位性のある技術とシステムを、進化出来るものとして提供することである。

「世の中に、日本のガスタービン・ジェットエンジンがなかりせば、これ程までも、我が国の技術者は悩まぬものを・・・」などと海外から言わせてみたいものである。勿論これからは国際連携が主流ではあるが。

原稿受付 2010年5月21日

*1 (株)IHI顧問

(社)日本ガスタービン学会 正会員

〒196-8686 東京都昭島市拝島町3975-18 IHI昭島ビル